

足立の教育

足立学園中学校・高等学校 広報誌

No.56

志グローバル
プログラム

中学生
職業体験

足立学園の志

足立学園 95 周年

松下政経塾と化石講座

個人探究論文

大学進学状況と

本校の進学指導

足立の ICT

体育祭と学園祭

中1・高1 学年主任より

OB の活躍

部活動戦績・表彰



人生は自分が作る、夢は必ず実現する。
ただし絶対に挫折しない強い志を持つことである。

学校法人足立学園
理事長 初鹿野恵太郎

お陰様で今年 5 月 4 日をもって、足立学園は創立 95 周年を迎えることができました。5 年前に、教職員が一丸となり 90 周年記念行事を大成功に終えることができたのも、教職員の「一致団結」が実を結んだ結果でした。あれからの 5 年間は、大変短く感じました。2029 年には、足立学園にとって、大きな節目である、創立 100 周年を迎えます。足立学園の「志」が特に今後の 5 年間に凝縮されると思います。この 5 年間で最も重要な期間であると考え、油断すること無く、100 周年のその日を万全の準備で迎えたいと思っています。それまでに時間はあるようで無いので、早めの準備と心構えが大切だと思います。現在の足立学園は、生徒も教職員も、理事、評議員も皆が協力し合って大変バランス良く運営されていると思います。又、中高一貫校としても、業界で注目される、評判の良い学園になって来ています。この学園を 5 年間で更に良いものとしていけるように、努力します。

今の世の中には色々な課題があります。その一つが少子化問題です。昨年の出生者数は、72 万 7 千人でした。100 万人を割ったのが僅か 8 年前のことなので、この減少には特に危機を感じています。学園は生徒が定数いて成り立っているの、今後の入学者数に影響があるのは当然ですが、男子校として今後も続けていくことが、学園創設者の思いです。またその事が、本校の「独自性」でもあり、私共の責任であると強く感じています。

その為には学園も地域の一員である為、一段と深いコミュニティを結び、選ばれる学校として、地縁、人縁を重視し、地道な実績を構築し、益々信頼されるように（生徒、保護者、関係社会等）努力を続けていきます。今後、生徒には、足立学園の教育方針である「自ら学び 心ゆたかに たくましく」を常に頭に置き、自分の未来を考え、自分を信じ、自信を持って、探究心や好奇心、状況判断能力を発揮し、変化の波を乗り越える力、つまり「自走力」を発揮してほしいと思います。そして、どんな厳しい環境になっても感謝の心を忘れずに、足立学園生として、自分の意見や個性を主張しながらも、相手の立場も考える柔軟性を持ち、堂々と、立派に生き抜いて欲しいと思います。

毎日、学園で勤めていると、改めて 95 周年を経た伝統の重みや、尊さを肌で実感します。退職された教職員の皆様、また卒業生全員の学園でもあるので、今後も責任を持って舵取りをしていきます。学園関係者は、年々歳々集まり散じて、変わっていきますが、皆、愛校心に溢れる人達です。私も、来たる創立 100 周年に向かって、全力で努力していきます。





足立学園 95 年のあゆみ

足立学園は2024年で95周年を迎えました。足立学園の創立記念日が5月4日なのですが、理由をご存じでしょうか。これは、創立者である堀内亮一先生が文部省（現・文部科学省）に求めている設立認可が下りたのが、1929年5月4日だったためです。当時は設立に先立ち、すでに入學式も終え、授業が始まっていたそうです。その後、太平洋戦争がはじまり、学徒動員や教育非常措置による商業学校の停止がありました。奇跡的に空襲の火の手から焼失を免れた校舎を見て、泣き崩れた生徒もいたといいます。高度経済成長期には生徒数はピークを迎えました。なんと2,644 人もの生徒が今の敷地と変わらない校舎で学んでいたそうです。それから800 人ほどにまで落ち込んだ生徒数激減、理事会と教職員の大同団結から始まった学園改革を経て、今では生徒に豊かな学びを提供し、大学進学のみならず将来を見据えた進路選択ができる学校になりました。

足立学園は地域の方々の熱意に応える形で生まれた学校です。財団法人から学校法人に変わる際、足立の冠を外すことも検討されたそうですが、足立の地、千住の皆さまのお力添えて創立されたことを残す意味で「足立学園」の名は残すことになりました。これからもこの地で、志を持って羽ばたいていく人材を育てる学校として、教育を提供できるよう努力してまいります。

1929 年 5 月	財団法人南足立学園設立認可 堀之内亮一初代理事長就任 大審院長・法学博士・牧野菊之助初代校長就任 「質実剛健 有為敢闘」を建学精神とする 南足立中学校・南足立商業学校開校式校章制定 鈴木又右衛門理事よりヒマラヤ杉寄贈	1993 年 4 月	足立学園中学校・足立学園高等学校に校名変更
1930 年 5 月	創立記念式	2000 年	隣接する旭町商店街が「学園通り」に改称
1932 年 11 月	財団法人足立学園と改称 足立中学校・足立商業学校と改称	2007 年 2 月	中学に特別奨学生入試を導入
1943 年 12 月	足立商業学校募集停止・足立工業学校設置認可	9 月	新校舎竣工
1946 年 3 月	足立工業学校廃止・足立商業学校復帰	2009 年	メール配信システム ラインネット導入
1948 年 4 月	学制改革により足立高等学校設置 姉弟校の潤徳高等女学校も潤徳女子高等学校となる	2010 年 11 月	新校舎、東京消防庁優良防火対象物に認定
1951 年 2 月	財団法人足立学園を学校法人足立学園に改組	2011 年 3 月	第15 期中学入学生から東京大学理科三類合格者
1959 年 3 月	中学校休校	2013 年 4 月	東日本大震災 帰宅困難者 150 名受け入れ
4 月	新築鉄筋コンクリート3 階建て校舎竣工	2015 年 3 月	自衛少年消防隊設置
1964 年 3 月	西側鉄筋コンクリート新校舎竣工	8 月	大学合格延べ人数が1,000 名を超える
1965 年 3 月	北側校舎に4 階部分を造成	2017 年 2 月	東京電機大学と高大連携に関する協定書締結
1966 年 10 月	鉄筋コンクリート体育館落成	5 月	中学2 年生で1 人1 台タブレットによる協働学習・ 双方向型授業の導入を開始
1967 年 3 月	2 名の教諭解雇に端を発する学園紛争	2018 年 4 月	Microsoft Associate Showcase School に認定
1969 年 6 月	学園紛争終結	2019 年 1 月	中学校入試に「適性検査型入試」導入
1979 年 1 月	創立50 周年記念校舎（理科特別教室棟）落成	3 月	体育館にエアコン設置
11 月	創立50 周年記念校舎（クラブハウス）竣工	8 月	文理科募集停止
1982 年 4 月	「大同団結」のもとに全教職員が一致団結して学 園再建へ意思統一	2020 年 8 月	普通科一本化で探究コース、文理コース、総合 コースの3 コース制導入へ
1985 年 4 月	パソコン設置・コンピューター委員会発足	2022 年 7 月	高校1 年生から「探究総合」の授業開始
1987 年 4 月	文理科設置	2023 年 10 月	オーストラリアクイーンズランド州と提携
7 月	全教室にスタンド式エアコン設置		スタディーツアーを開始する
1990 年 4 月	商業科募集停止		3 か月間ホームステイするターム留学を開始
1991 年 4 月	足立中学校再開 制服を黒の詰襟からネイビーブルーの詰襟に改定		オックスフォード大学ハートフォードカレッジと提携
			全館 Wi-Fi 設置、天吊りプロジェクター型電子黒板 設置完了
			日本の中高で初の Microsoft Showcase School 認定、2025 年度も継続が決定
			第1 回アフリカ・スタディーツアー実施
			第1 回ラオス・スタディーツアー実施

足立学園の志

志共育とこれからの足立学園

足立学園は今年 95 周年を迎えました。足立学園の志共育が支持されるようになり、入学希望者も増えた昨今。改めて志共育を取り入れたきっかけと、今後の足立学園の教育と未来について、井上 実校長に、戸井永貴宏先生、高橋真衣子先生と共にお話をうかがいました。



井上 実 校長

第 16 代足立学園中学校・高等学校 校長

昭和 57 年（1982 年）に足立学園高校に数学科教員として着任。また、高校野球部のコーチ、監督として 35 年チームを率いてきた。大の歴史好きであり、志共育のモットーとして掲げた「志（ゆめ）なき者に成功なし」は、吉田松陰の「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし、故に夢なき者に成功なし」から来ている。

◆志共育の重要性

インタビュー：改めて、足立学園の志共育というものについて、井上校長から、志共育で重視していること、そして重視せねばと思ったきっかけなどを教えてください。

井上校長：今の時代の高校教育や中学教育とかなを見ていると、学力偏重主義で、どうしてもゴールが大学進学になっているような、そんな感じがしています。どこの学校を見ても、やっぱりそこを競い合っている。でも、有名な大学に何人入りました、ということが何につながるのか？ということも思っています。その大学に入った生徒たちは大学に進学した後どうなったのか、というところを追及してあげないといけないのかなと考えるようになりました。もちろん大学進学ということはものすごく良い事ですし、そこで力を発揮できるような教育をしてあげないといけないのではと思うのです。大学に行けば就職できるという時代はもう去ったと思います。そういう意味で、人間が何のために生きているかという、自分本位で自分の勝手な目標を達成するために生きているなんて、それはあまり評価されないですね。人との繋がりがあって生きていけるわけであって、そこに世のため人のためとか、誰かのためにとか、そういう思いが私は大事だと思っています。少年の時代から少しずつそういう思いを芽生えさせていくと、大きな志に繋がっていくのではないかと考えています。そしてその志が持てれば、何のために学ぶのか、何のために大学進学を選ぶのか、何をやるのかという事を明確に自分の中で決めることができます。やはり自分で決めたことじゃないと身につかないものです。人間というものは人に決められたルートで失敗すると、その人のせいにしてしまいます。自分でしっかりと道を決めて切り拓いて、その先に社会貢献・人類貢献があるのだという、そういうものを教育の中に持たせていかないと、いくら勉強ができるようになっても「君は偏差値高いね」という評価で終わってしまうと思うのです。

◆志共育の受けとめられ方

井上校長：試行錯誤しながら志共育というものをやってきて、先生方も一生懸命取り組んでくださって、生徒の間にもかなり想いが芽生えてきていると感じています。今後も若い先生たちに引き継いでいってもらって、より高いレベルの共育になっていけばと思います。

インタビュー：先生が「志」について発信されている中で、周囲の方や保護者の方、また校長室を訪ねてくる生徒や、取材に来る方の「志共育」の受け止め方について何か感じられることはありますか？

井上校長：私たちが言っている志共育とは、おそらく誰の心にもあるものだと思います。皆が「大学にさえ進学してくれればいい」なんて思っていないと思います。ただ、それを言葉にできないだけではないかと思っています。

ます。「人間教育」とか「人間力を高める」という言葉がありますが、明確な目標にはなりません。そこに「志」という言葉が皆さんにストンと落ちているのではないかと思います。なので、進路や将来を迷っているお子さんや保護者の方が拠り所になってくれているのではないかなと思っています。進学塾と言われる塾でも、進学先の実績次第などところがあるようで、それでも先生方も教育者ですから、どこかでそれじゃいけないと思われています。それが、学校から「志を持たせる」と強い発信をしたことで、良い教育だよねと響いているように取材を受ける中で感じています。

◆志に向かう生徒の姿

インタビュー：我々教員は、「志」の話を生徒に伝えながら教育活動を行っています。その教育活動の目標をイメージするために、校長先生の中で印象的な成長をした生徒がいたら、ぜひ教えてください。

井上校長：最近でしたら、海外の大学に進学した生徒ですね。明確にやりたいことをしっかり表現できて、自分の力で突破した生徒がいました。また、そこまで大きなことではなくても、修学旅行でリーダーシップを発揮する生徒や、学園祭ではやりすぎかもしれないけれど失敗を恐れず果敢にチャレンジする生徒が現れています。小さなことでもいいので、人のためにやるぞ、という気持ちを持ってチャレンジしてくれることが先につながるので、足立学園の生徒は「いいな」「成長しているな」と感じています。もちろん間違いを犯す子もいます。でもそれは成長過程の中で起こりうることなので、転んだけれど起き上がったという教訓にしてくれればいいと思っています。

◆次に繋げる若い先生方へ

インタビュー：これからの足立学園の教育を考えたときに、先生方の力が欠かせないと思いますが、井上校長から見て、若い先生方に今後持ってほしい気持ちなどはありますか？

井上校長：今の若い先生方は、日本全体が裕福じゃなかった、努力しないと手の届くところに品物がなかったというような時代に育った人間とは全く違うなと感じています。もちろんそれが良いとか悪いとかそういうことではありません。若い先生方も育ってきた環境があって、今の生徒たちに近いわけです。そのため、その時代に応じた教育を行うことができるのではないかなという期待を持っ



ています。一つ言うならば、若い人に限らず、世代を超えて「打たれ強さ」を持ってほしいと思います。人間的なスキルアップが必要だと思います。教員はよく聖職者といわれますが、これからは自分のライフスタイルとうまくバランスをとりながらやっていくことが重要になると思います。そこでスキルアップは大事になってくると思います。

インタビュー：戸井永先生は本校に来て2年目ですが、本校に来てみて、どのような印象を持ちましたか？また、本校での目標などがありますか？

戸井永先生：足立学園に来て最初に印象的だったのは、探究コースがあるということでした。自分自身、イギリスの大学院に進学したのですが、そこで初めて解のない問題、論文を読んで研究しました。それまで、どれだけ点数を取るかという勉強をしてきたので、自分で情報を集めて考える勉強が凄く楽しかった思い出があります。そんなイギリスの大学院でやっていたことを、足立学園ですぐに探究活動として行っているというところに、すごく驚かされました。今の高校1年生も楽しそうに探究活動を行っています。そんな生徒たちの活動を、自分の経験も踏まえながらサポートしていくことが、今の私の目標です。井上校長：まさに、いま日本が若者に求めていることは、発想力とか自分で何かをしていく力です。それこそ人に与えられるのではなく、自分で考え自分で答えを出していく、そういう人間になることです。そして世界との競争で勝っていかなければなりません。

インタビュー：高橋先生は本校にいられて長くお勤めされていますが、改めて生徒の事を振り返ってどう感じられていますか？

高橋先生：家庭科という科目の性質上、ほとんどの高校生を見てきているのですが、近年、明らかに積極性が出てきたと感じています。授業に対する姿勢だとか、実習をするときの向き合い方とか、せっかく作るなら良いものを作りたいという意識を感じます。積極性や向上心、アクティブな気持ちというのが増えてきました。授業以外でも、部活動や生徒会活動でもすごく感じるようになりました。

井上校長：本校は学力的な帯が長くて、学力の高い生徒も低い生徒もいます。しかし、志入試を取り入れた時から、私はこの学校では自分のやりたいことをやるんだ、と生徒たちに知ってもらいたいと思っています。学力の高い生徒だけが評価されるのではなくて、低い生徒でも居場所があること。典型的なのがスポーツであったり芸術であったりすると思うのですが、自分のやりたい



ことをとことん追求する。そういう前向きさが授業にも出てきているのではないのでしょうか。これをもっと評価してあげることによって生徒は前向きになれると思います。

高橋先生：本校の生徒は家庭科の時間が好きで、頑張ってくれる生徒が多いです。調理実習とか自信があることとかにどんどん取り組んでくれます。私の学生時代、家庭科のような実習科目では、寝てしまったり違う事をしたりしてしまう生徒がいました。今でもないわけではないのですが、私としては、将来生徒が豊かに人生を歩んでいくために家庭科を学んでほしいと考えています。それが今の一番大きなモチベーションになっています。心が豊かでないと志は持てないし、自分が豊かでないと世のため人のためにという気持ちになれないと思っています。家庭科は志共育のベースになる教科だと思っているので、「志」という言葉を学校が発信した時に、私の志はこれだなど、すんなり理解でき、今は楽しんで授業を行えています。

井上校長：素晴らしいですね。先生が楽しんでいなかったら、生徒も楽しめなと思います。若い先生の中に溢れるエネルギーは、まさに「財産」だと思うので、どういう気持ちで生きているかが生徒に影響があると思います。その証拠に、本校は教育実習で戻ってきてくれる生徒が多いです。先生方に憧れて、自分も教職を志す、これが答えだと思います。前回の教育実習は20人ほど帰ってきてくれましたね。この卒業生たちが皆教師になってくれたらという思いもあります。そういう意味では成長してくれていると感じますね。

インタビュー：戸井永先生は、今ご自身の中で意識して指導されていることなどはありますか？

戸井永先生：はい、生徒を国際的な視野で物事を考えられるように育ててきたらという思いがあります。英語科なので英語ができるようにすると思われがちですが、あくまでコミュニケーションツールの一つにしかすぎないため、英会話ができるだけだったら現地の人を雇えばいいわけです。そうではなく、日本人として何ができるのか、自分の育った文化を大事にしながら英語を使えることに価値があると思うので、国際的な視野で色々なことを考えながら、日本人としての自分を大事にしたいと思っています。その自分の軸みたいなものを持って、将来国際的に活躍できる生徒を育てられたらという思いがあります。先日、オーストラリアスタディーツアーやターム留学



でお世話になっている、オーストラリアブライビー高校の生徒が足立学園に来てくれました。その時に柔道部や剣道部が見せた技もその一つだと感じました。他の書道体験や家庭科での和菓子作りなど、この旅のハイライトだと先方の先生もおっしゃっていました。とても喜んで帰っていただけたので、今後も継続できればいいなと思っています。

井上校長：素晴らしい。先生のおっしゃる通り、英語を話すことが国際的な視野を持つという意味ではないと思います。そして、国際的に自分という人間として活躍したいのかを考えれば、選択肢は限りなくあります。そういう視野を学んできてほしいと思って、ラオスタディーツアーや、アフリカスタディーツアー、修学旅行での海外選択などを取り入れています。行ける生徒は限られているので、行った生徒に発信をするチャンスをもっと与えられるといいかなと思います。肌で感じたものを、生徒が生徒に伝える。そういうチャンスがあると、参加できない生徒にも還元できる。そういう仕組みづくりは課題の一つですね。英語が主流になりやすいところはありますけれど、困っている人や助けを求めている人が世界中にいますので、生徒たちがその人たちのために何かしようと思った時に、英語だけにこだわる必要はなく、別の言語の国に行こうと思えることも大事だと思います。

◆足立学園の未来

インタビュー：現状を踏まえた上での、10年後、20年度の足立学園はどうなっていてほしいとお考えですか？

井上校長：先生方の熱気やそういうものは、どこの学校にも勝っていると思っています。それを持ったまま、この足立区の北千住で男子校として切磋琢磨しながらやってほしいと思います。ライバルの存在は必要だと思います。先生方もぜひ良い意味でのライバルを想定しながら教育活動に取り組むと、自分にまだ足りないと思うことがいっぱい見つけられると思います。

インタビュー：今日は皆さん、ありがとうございました。

インタビュー：入試広報部 堂添 祐樹 写真：入試広報部 八重樫 彩



志共育とは—

本校の建学の理念は「質実剛健 有為敢闘」です。つまり、私たちのグランドミッションは「誠実でたくましく、優秀で人の役に立ち、最後までやり遂げる人財を育成すること」です。そのために、志を持つこと、叶えるためにやるべきことを導き出すのが「志共育」です。



建学の理念である「質実剛健 有為敢闘」を言い換えたものが、「志」を持ち、将来を自分の力で切り開き、世のため人のために活躍できる人財（人材）を育成すること」となります。

志があれば、先の見えない不確定な未来でも、どんな困難も乗り越えることができます。自分がダメだと思っているうちは、志は持てません。そこで4J（自尊心、自信、自負心、自己肯定感）を高め、志につなげ、多くの人を幸せにでき、自分も幸せになる。その為に学ぶというのが志です。志は全ての人の個々の奥底にある気高い想いであり、そこに気づかせ、導き出すという観点から「教育」ではなく「共育」として共に育むと書いています。

ICTの導入、探究総合で育む課題解決能力、海外プログラム、SDGsで地球規模で物事を考えること、それぞれが全て志につながる学びの一つとなっています。

志 千利休の訓にある「守・破・離」は茶道のほか、弓道などの武道でも用いられる学びのステップです。様々な学びを通じて4J「自信・自負心・自尊心・自己肯定感」を高めて志につなげます。

	守 基礎基本 教え・型・技を忠実に守り、確実に身につける段階	破 発展 他の教え・型・技についても考え、良いものを取り入れ、発展させる段階	離 自修自得 教えや型から離れ、独自の新しいものを生み出し確立させる段階
学習	【高校】探究総合（課題探究・進路探究）		
	基礎学力/補習など	【高校】コース制/ゼミ	高3アラカルト授業
特色ある学び	紳士教育（性教育・主権者教育）		
	ICT活用教育（Microsoft Showcase School/Microsoft365/ポートフォリオ/プレゼンテーション/AI活用）		
	【中学】志共育導入	【高校】探究総合（課題探究/進路探究/松下政経塾）	
グローバル	英会話/【中学】Tokyo Global Gateway	【高校】海外ターム留学	【高校】オックスフォード特別留学
	【中学】ブリティッシュヒルズ/【中高】スタディーツアー（オーストラリア・ラオス・アフリカ）		
学校行事・生活	【中学】職業体験/ボランティア活動（地域清掃）福祉体験・幼稚園・保育園実習【中高】クラブ活動/委員会活動		
	学園祭/体育祭/修学旅行（中学3年・高校2年）		
	【中高1年】校外宿泊学習	【中学】志講演	
	【中学】強歩大会/球技大会/スキー実習	【高校】模擬裁判/大学での授業・出張授業	
	マラソン大会/合唱コンクール/校外学習	【高校】弁論大会	
	【高校】球技大会/OB懇談会		



志共育認定講師

一般社団法人 志共育プロジェクトの活動に参加しています。教員が志共育認定講師養成講座を受講し、認定講師としてバッジを取得しています。学校全体で志共育に取り組んでいます。



中学生職業体験

中学1年生は農作業体験、2年生は保育園職場体験、そして3年生は幅広い職業体験を行いました。自分の目指す進路とは違う職場での体験や、思い描いていた職業へのイメージが、体験することで変わるなど、大きな学びの機会となったようです。

中学1年生 農業畜産体験

小川 隆弘 先生

厳しい暑さを肌で感じる7月末、中学1年生は長野県白樺湖周辺で2泊3日の宿泊教室を実施しました。入学後初めての宿泊教室は、ハイキングや飯盒炊爨、特産品を使用したものづくり体験等で級友との調和を図ると共に、地域特有の文化を学ぶことを目的としています。宿泊2日目は大きなテーマのひとつである『命』について学びました。例年お世話になっている鷹山ファミリー牧場では「食育」「職育」を目的とした農業畜産体験を行いました。牛のブラッシングや乳搾り、山羊の散歩等の酪農をはじめ、畑ではマルチ張りから苗の植付作業までを丸1日かけて行うなど、都会で生活する生徒達にとっては非日常な時間を過ごしました。世話をしている目の前の生き物がいずれ食用として出荷される、生き物それぞれに個性があり尊厳がある、尊い命をいただき私たちは今を生きている、現地スタッフの方々のお話を、それぞれが真剣な



まなざしで聞いていました。人間と他の生き物、そして環境が共生している実感を得ることで『命』に対する理解を深めた貴重な体験でした。また、食物が生産される過程で、どれだけの人々がどれだけ想いを持って時間や労力をかけて生産に関わっているのかを体感し、日々の暮らしがどのように成り立ち、豊かに継続されているのかを考えるきっかけになりました。感謝の気持ちを持ってお腹一杯いただいたローストビーフ丼は感慨深い思い出です。

中学2年生 保育園職場体験

梅堀 泰史 先生

志共育は、助けが必要な人への視点に立ち、福祉教育として高齢者疑似体験、車いす体験、ボランティア講話を実施しました。その後、自分にできることを理解しながら、「誰かのために」という精神を強く意識したより濃い内容へと変化しています。中学3年生で職業体験を実施していますが、快く受け入れてくださる保育園が多いこともあり、志共育をより充実させるための機会として、今年度より保育園職場体験を実施することになりました。

各施設から概ね好意的なご意見をいただき、生徒たちは事後指導にも積極的に取り組んでくれました。全体的に良い体験学習となりましたが、問題がなかったわけではありません。ご指摘いただいたことは学校生活の中で起こっている学年や個人の課題と合致しています。体験によってできる経験や学びがあるのは事実ですが、普段を大切に時間を積み重ねなければ、校外での活動目的をしっかりと果たすことができず、ご協力いただく施設等にもご迷惑をおかけするだけとなります。

いただいた好意的な意見の中の一つに「手作りおもちゃ」がありました。家から持ち寄ったもので事前指導の一環として制作を行い、持参しました。制作時、非常に楽しそうに取り組んでいたのが印象的です。何を楽しんでいたのか…友人と話をしながら、さらにはできあがったもので遊ぶことを楽しんで生徒が多かったかもしれません。自分で作ったおもちゃで夢中になって遊ぶ園児を思い描き、その取り組みと時間を楽しめる生徒で溢れば、「誰かのために」の精神の下、普段のたくさんの課題は概ね解決されるのだと思います。そんな心の成長が助長できるよう、また一日一日生徒たちと一緒に過ごしてまいります。



中学3年生 職業体験を終えて

前原 大地 先生

5月28日～30日の3日間、中学3年生は足立区内の事業所50か所へ職業体験に行きました。今回の職業体験では以下の3点を目的としました。

- ① 働くとはどういうことか体感する。
- ② 身近な事業所が「目の前の方々」にどのように貢献しているかを知る。
- ③ 自分の職業観について考える。

職業体験をするにあたり、5月7日にマナー講座を実施しました。身だしなみやあいさつの仕方、電話の仕方を学びました。初めて外部の方へ電話する生徒もあり、緊張している様子も多く見られましたが、電話をし終わった後は達成感を味わった生徒もいました。

体験当日はそれぞれの事業所で仕事に取り組んでいる生徒たちの姿がありました。園児たちと笑顔で触れ合ったり、消防士の日課を体験したり、広

告案の作成をしたり、商品の品出しをしたり…。一生懸命取り組んでいる生徒たちの姿はとても眩しく、いつもよりも一層頼りがいがあるように見えました。

実施後の振り返りアンケートでは「いつも見ているところでも一生懸命働いている人がいることを知ることができた」「色々な角度から物事を見ることの重要性を学べた」「周りの状況を見て、丁寧に行動することの大切さを学べた」などの声がありました。少しでも何かを感じ、学びや成長につながってくれたら嬉しいです。

最後に、学校だけでは実施できない「職業体験」という行事に協力してくださった多くの方々に感謝申し上げます。



松下政経塾と化石講座

足立学園では、パナソニック創業者の松下幸之助氏が、次代の国会指導者育成所として私財を投じて設立した、松下政経塾にて自分の志を見つめる時間を取ります。また、フランスから古生物学が専門の研究者で、化石研究の第一人者である Dr. François Escuillié (フランソワ・エスクイリエ先生) をお招きして、「化石講座～恐竜の絶滅の謎～」と題しての特別講座がありました。

松下政経塾「こころざし探究プログラム」 清田 由紀 先生

6月に、高入生5クラスと中入生希望者が松下政経塾「こころざし探究プログラム」に参加しました。

まずは事前指導として松下政経塾の方から、松下幸之助氏の功績と松下政経塾の理念について学びました。松下幸之助氏は「経営の神様」として知られています。生徒たちからは「どのくらい資産を持っていたのか」「どうやったら成功したのか」という素朴な質問が上がりました。松下氏は単なる成功した実業家ではなく、「物と心の繁栄を通じて、平和で幸福な社会を実現したい」という強い信念をもった人物です。また「国を導く真のリーダーの育成」のため、若者に熱い期待を込めて私財を投じて松下政経塾を創立したことを知り、生徒たちは感銘を受けていました。本校が掲げる「志共育」との結びつきも感じたようです。

プログラム当日、少し緊張した面持ちで政経塾に現地集合しました。初めての場所に自力でたどり着くことも「探究活動」です。今回のテーマは『「2050年の社会のビジョン」を描くとともに、日本や世界が直面する社会課題に対してどう実践的に行動するか』です。スケールが大きく難し

い課題でしたが、全員が真剣に取り組みました。初めは内容があやふやであったり、自分本位であったりした答えが徐々に輪郭を持ち始め、視野が広がっていったようです。時間を延長して白熱した話し合いを繰り広げるグループもありました。最後は代表者が講堂で自分の志を発表しました。この会場は政経塾内でも非常に重みのある、厳粛な場です。政経塾の方との質疑応答もあり、自分の考えをさらに深める機会を得られました。仲間のそのような様子を見て「自分も志をぜひ発表したい」と積極的に手を挙げる生徒もおり、活気ある発表会となりました。また、生徒たちの聞く姿勢についてもお褒めの言葉をいただきました。

このプログラムは、生徒たちにとって高校入学オリエンテーションの締めくくり、また、ここから始まる「志」のきっかけとなってくれたと感じています。政経塾のすぐ近くには茅ヶ崎の海が広がっています。彼らの将来も前途洋々たるものであると確信しています。



化石講座フランソワ先生来訪 渡辺 裕多 先生

5月28日(火)の放課後に、本校の理科室で、フランスの古生物研究者であるフランソワ・エスクイリエ博士による化石講座を行いました！フランソワ先生は世界各地で化石の発掘調査を行い、さらにはフランスに展示施設も備えた研究室を持ち、最前線で古生物学の研究をしている古生物学者です。今回は来日していたフランソワ先生に足立学園にも足を運んでもらえるというお話を探究活動でご縁のあった大学教授からご提案いただきました。ぜひ本校でも開催してみようと思い、今回の体験会の実施に至りました。

そもそも、男の子は恐竜をはじめとする古生物が大好きで、私の生物の授業でも、毎回生徒たちは興味津々に聞いてくれます。事実、今日の恐竜学は日進月歩であり、様々な既成概念が覆ってきています。例えば、恐竜から鳥類が進化してきたことはここ20年で当たり前のようになっており、最

近では不可能だと思われていた恐竜の体毛やうろこ、卵の色までが分かってきております。そのため、実際の科学者の話を聞き(英語を同時通訳してくださる方も一緒に来ていただきました)、本物の貴重な化石に触れるという今回の体験会では、生徒たちは大興奮の様子でした。化石に触れたあとは、一生懸命英語でフランソワ先生に質問している生徒も見受けられました。

急遽の企画だったにもかかわらず多くの生徒が参加してくれました！当日は中学校3年生は職業体験で、また今回は全生徒にもアナウンスできなかったもので、再び実施する際はより多くの生徒に参加してもらいたいと思っています。





個人探究論文

高校 2 年生の探究コースでは、一人一人が探究したい「答えのない課題」について実験や調査、フィールドワークなどをおこない、中間発表ポスターセッションを通じてフィードバックされた内容を吟味し、最後に論文にまとめます。今回 2 名の探究論文の抜粋版を掲載いたします。

どうすれば地方議会の 関心を高めることができるか

——柏市議会から見る、市民参画のあり方——

伊藤 竹蔵（2022 年度足立学園高等学校 2年 A組 5番）

要旨

本稿では、政治の諸問題において軽視されがちでありながら、様々な課題を抱えた地方議会に焦点を当て、人口減少と少子高齢化に襲われる日本を、地域から盛り上げ、暮らしていく人々にとってより良い社会とはどういうものなのかについて想像を広げるための論文である。

現在の日本では投票率の低下が顕著であり、特に地方議会は市民の関心から大きく離れている。都市部では投票率が 3 割というのも珍しくない。そのなかで、地方議会の関心が広がれば、より良い街を形成することができるのではないかと、そして地域コミュニティが発達した地元は、どのような成長を見せてくれるのか、新しい街のあり方を創造すべく、まずは市民の関心を高めるために実験することにした。しかし、この実験には様々な課題が山積し、市民の関心を高めることはできなかった。

1. 序論（目的、背景、先行研究）

我々の住む日本国において地方自治は大きな役割を果たしている。現在の地方自治はまず住民自身によって運営されており、そのために国から自立した地方公共団体をつくられている。このことは憲法によって保障されており、日本国に住む人間の大事な権利である。この現在の地方自治の運営体制は、民主主義の原点であり、「民主主義の学校」と呼ばれている【13】。この地方自治は、地域に暮らす人々の幸せを実現するため行われているものであり、何よりその地域に住んでいる人々が自ら進んで努力することが欠かせない。特に、我々に投票権があり、地方自治の中核である地方議会は、我々の意見を反映するために必要不可欠な機関として重要視すべきであろう。

しかし、現時点での地方議会は数多くの課題を抱えており、議会そのもののあり方が問われる由々しき事態になっている。この現状を変え、持続可能な住民参画を可能にするには、どのような改善、市民からのアプローチが必要なのだろうか。

2. 本論（方法、実験、結果）

まず、現状の地方議会の課題を整理してい

たい。大きくまとめると以下の 3 つであると考えられる。

- ① 市民の関心が下がっている
- ② 市民に対する情報が少ないため、議会での取り組みが周知できていない
- ③ 市民からの意見が反映されづらく、議会と市民の心理的距離が離れている。

以上 3 つの課題の課題があるものと考えられる。

- ① 市民の関心が下がっているため

本当に市民の関心が下がっているのだろうか。

統一地方選挙における地方選挙の投票率が

次の通りである【9】。

投票率の状況						
(割合: %)						
区分	平成 11 年	平成 15 年	平成 19 年	平成 23 年	平成 27 年	平成 31 年
都道府県議	56.70	52.48	52.25	48.15	45.05	44.02
市区議	57.02	52.94	53.37	48.93	46.46	44.45
指定市議	50.69	47.70	48.92	47.59	44.28	43.28
市議	60.76	56.74	57.44	50.82	48.62	45.57
区議	47.36	43.23	44.51	43.23	42.81	42.63
町村議	82.05	77.76	71.49	66.57	64.34	59.70

発電菌を用いた発電

片山蒼太 (2023 年度足立学園高等学校 2年 B組 5番)

再生エネルギーの中でも近年注目されている「発電菌を用いた発電」を取り上げ、この発電方法がどのようにしたら実用的な発電量となるかを実験したものである。今日、有限資源の代わりとして再生可能エネルギーを主として使用しなければならないといった動きの中で、まだ知名度の低い「発電菌を用いた発電」という発電方法の研究を行った。発電菌とはその名前の通り自ら電子を排出する土壌内に存在する細菌の総称である。そしてその発電菌を含む泥で泥電池を作成した。発電菌の低い知名度の原因はやはり「発電量の低さ」である。本稿ではこの「発電量の低さ」をどうにか解消するため様々な方法を試した。しかし嫌気的な環境でのみ生存が可能な発電菌は実験において施した環境の変化に対応できず死滅する場合があります、逆に発電量が下がってしまうことがあることが分かった。今後は個々の発電菌が最も発電できる泥電池内の環境と、電池そのものの発電効率を上げる方法の研究が望まれる。

1. 序論

近年、石油や石炭などの有限資源の枯渇が懸念されている。そこで、持続可能な社会を構築するため現在再生可能エネルギーに注目が集まっている。特に、その中でも化石燃料に頼らず有機物を微生物によって分解し発電する「微生物発電」は、分解する有機物を供給すれば半永久的に発電が可能であり、さらに下水に含まれる有機物を発電に用いることで下水の浄化に貢献できる画期的な発電方法である。

この実験の目的は有機物を分解し発電をする「発電菌」を用いて再生可能で環境にやさしい発電をすることである。

発電菌とは泥や土の中に生息する、嫌気細菌である。発電菌は身近な土壌内に存在するため、身近に採取できる土壌を利用していた。また、両方の電極に銅板を用い土の中に含まれる有機物を微生物に分解してもらい電子を負極に渡すことで有機物の持つ化学エネルギーを電気エネルギーに変換する。このため分解効率の良い細菌が採取した土壌内に存在すれば発電効率も上がる。

私は、発電菌がどこにでも存在しているのであれば、身近な土壌から誰でも泥電池が作成できると仮説を立て、それを実証するために研究を進めた。

2. 本論（方法、実験、結果）



図1 実験1の装置図

最初に行った実験では、荒川の土手から条件の異なる5カ所の泥を採取し、その泥を入れた水槽に電流計を用いて通電するかを確かめた。

条件1：干潮時露出する泥。

条件2：条件1の下部、空気に触れていない土。

条件3：干潮時に露出しない泥。

条件4：満潮時に露出する。

条件5：満潮時に露出するかコンクリート上に乗っている。

発電菌はどこにでも生息しているということを確認するため、荒川の土手の泥を採取し簡易的な泥電池を制作し、発電が可能かを確認した。マイクロアンペア計を用いて電流値 [μA] を測定した。その結果、通電が確認されたため荒川河川敷の泥に発電菌は存在すると考えられた。



志グローバルプログラム

①修学旅行

コロナ禍で国内に代替されていましたが、やっと実現できました。初めての国外修学旅行です。

初めての海外 高校修学旅行 2024「台湾」 高校3年A組 伊藤竹蔵

昨年度となる2024年の3月11日から3月15日までの5日間、“足立学園初”となる海外への修学旅行先である、台湾に行ってきました。

足立学園の修学旅行は、旅行先を生徒が決めるという他校にはなかなかない仕組みになっています。そして他校では先生たちが行く下見にも、旅行委員長が帯同し、旅行会社との話し合いを重ねながら旅程を決めていくというのも特徴です。

今回の修学旅行は初めての海外ということで、過去の旅程を引き継ぐということができなかったのも、一から旅程を組み立てました。下見では様々な名所を巡り、どのスポットを旅程に組み込むべきかを検討し、一緒に行った渡辺先生と気づいた点、注意すべき点などについて毎晩会議を行うなど、とにかく「どうすれば生徒が楽しめるイベントにできるか」を考えながら過ごしました。

そして、そうした体験を元に、当初の予定にはなかったプランを実際に修学旅行の行程にも盛り込むように努めました。例えば3日目にあった台北から市街地郊外の新竹への移動をバスから台湾高速鉄道（新幹線）に変更してもらい、日本の技術がどのように台湾に息づいているかを感じられるようにしました。また

行程の中で寄る予定の無かった龍山寺を盛り込み、台湾の独特な宗教文化に触れる機会をつくり、ランタンで有名な十分を旅程に入れたりなど、「学び」を深めてもらえるように組み立てました。

今回の修学旅行で特にこだわったのは、台湾と聞いてすぐに連想する「夜市」です。下見では毎晩夜市に行き、どの夜市であれば、現地の雰囲気を楽しめるか、かつ安全性が高いかなどを先生と話し合いながら決めました。結果的に今回の修学旅行でも特に満足度の高い行程になったかなと感じています。

今回の下見、そして修学旅行本番を通して、台湾の魅力をより強く感じることができました。日本と似ている部分もありつつ、街並みや食文化、細かい部分の日本との違いを知ったことで、更に台湾について深く知りたい気持ちになりました。

今回の修学旅行は旅行会社、現地のガイドさん、先生方など多くの方々のご協力のおかげで、様々なプランが実現できました。そして何より、生徒ひとりひとりがルールを守りながら楽しんでくれたことで、海外でありながらも自由度の高い修学旅行にすることができました。今後の海外の修学旅行も、今回の経験を引き継いでより良いものにしてけると嬉しいです。





②オーストラリア・スタディーツアー

ホームステイで過ごすことで語学習得以上に学びがあります。毎年大きく成長して帰ってきます。



オーストラリア・スタディーツアーを終えて 奥田 香苗先生

2024年8月5日から17日までの約2週間、38名の中高生と一緒にオーストラリアのクイーンズランド州に滞在してきました。実は私が担当した Windaroo Valley State High School の参加者 20 人のうち中1が7名、中2は4名おり、英語だけでなく海外生活にも慣れた生徒が半分以上でした。そのため、行きの成田空港での搭乗の仕方から帰りの入国審査まで、彼らにとっては何もかもがまるで冒険旅行のようで本当に大変だったと思われます。しかし、初めのうち生徒たちは全ての物事にオドオドするばかりだったのに、大きな愛で彼らを包み込んでくれた現地の先生方、ホストファミリーのみなさん、そしていつも隣りで優しく見守ってくれたバディーの皆さんのおかげで日に日に成長していきました。この貴重な体験に感謝して、さらに足立学園生活に彩を加えてほしいと切に願っています。

Boys, be ambitious and broaden your horizons as much as possible!!





④ラオス・スタディーツアー

ビエンチャン高校との交流や初めての鉄道移動など、新しい取り組みも始まりました。

ラオス・スタディーツアーについて 中畑友祐先生

10月27日から11月5日まで、9名の生徒がこのツアーに参加しました。ツアーの中で在ラオス日本国大使館、JICA ラオス事務所を訪問しました。そこで、支援とは上から目線で与えるものではなく、現地の文化や生活を理解し、心と心が通じ合って初めて成り立つものであると学びました。ラオスの3つの都市を巡る中で地域格差や異なる課題があることに触れ、支援の難しさを学びました。現地校生徒との交流を通じて、言葉が通じなくてもパフォーマンスやジェスチャーを介して心が通じ合う、コミュニケーションの本質に触れることができました。幸せとは何かを考えさせてくれる、日々当たり前になっていたことの1つ1つに感謝しなくてはいいなと思わせてくれる、そんな多くの学びがあるのがこのラオス・スタディーツアーです。





令和6年度大学入試合格状況と 本校の進学指導

進路指導部長 三浦智美

1. 卒業生合格状況

国公立大学には26名（現役19名）が合格しました。主な現役の合格状況は、昨年に引き続き東京大学に1名、東京科学大学（旧東京工業大学）に推薦1名、前期2名、筑波大学に総合型1名、前期1名、千葉大学に前期1名、後期1名と、様々な方式で合格しました。また、既卒生では、京都大学、東北大学に合格しました。最後の最後まで努力したからこそ、勝ち得た結果の表れです。東京科学大学合格の3名は、同大に在籍している卒業生の江熊くんによる自主ゼミ「江熊ゼミ」に参加していました。この繋がりによる合格は、今後も続いてほしいと思っております。また、近年では推薦や総合型での合格者が多く、在学中の探究活動の成果が結びついていると言えます。

私立大学では、早慶上理・GMARCHに140名（現役115名）が合格しました。昨年よりも30名も多く、大学別にみると、上智大学で過去最大の合格者が出ました。志高く努力したすばらしい結果です。卒業生数が昨年より少ない中、立派な成果を収めることができました。

表1は、過去8年間の卒業生数における各大学グループの現役合格者

入試年度	卒業生数	国公立		早慶上理		GMARCH	
令和6年度	256	19	7.4%	40	15.6%	75	29.3%
令和5年度	280	15	5.4%	16	5.7%	66	23.6%
令和4年度	365	16	4.4%	38	10.4%	78	21.4%
令和3年度	239	14	5.9%	30	12.6%	70	29.3%
令和2年度	289	17	5.9%	13	4.5%	50	17.3%
平成31年度	364	11	3.0%	33	9.1%	58	15.9%
平成30年度	341	21	6.2%	45	13.2%	68	19.9%
平成29年度	317	18	5.7%	40	12.6%	85	26.8%
平成28年度	303	13	4.3%	24	7.9%	89	29.4%

注意：合格数はすべて延べ人数です

表1の比率です。国公立大、GMARCHグループは昨年よりも高くなっています。早慶上理グループは低くなっていますが、生徒達の努力が実を結び、多くの合格を出すことができました。

これらは一部のコース・生徒の活躍によるものだけではなく、各コースですばらしい結果を残しています。数年前より、「3コース制」「アラカルト授業」「探究の授業」など新たな試みが導入されており、これらの取り組みが合格実績にもつながっていると考えます。

2. 本校の進学指導

本校では、生徒たちに「将来、志を達成し、社会に貢献できる人材として活躍してほしい」という願いを持っています。彼らがそれを達成するには長い年月が必要であり、大学進学はその一つの通過点です。しかしそれは大事な、重要な通過点であると捉えています。その先にある志を達成できるように「早期に目標を持てる指導」「実力を養成できる指導」を2本柱としています。

「早期に目標を持てる指導」として、高1で「キャリアデザイン講演会」を実施し、10年先、50年先の自分について具体的なイメージを持たせます。社会人OBを招いての懇談会や、マイナビによる講演会も行います。また「夢ナビライブ」（10月・オンライン開催）にも全員で参加します。これは文部科学省後援の国内最大級の進学イベントで、300以上もある講義から自分が興味・関心を持つ学問分野について受講できます。「大学で学びたいことが見つかった」「将来のやりたい職業と大学での学びが繋がった」等、生徒からも好評です。高2以降では、大学生OBによる講演会、国公立進学ガイダンス、21大学による校内説明会などを実施し、それぞれの希望進路に合った、より具体的な指導を行っています。さらに、各大学のオープンキャンパスや学園企画のキャンパスツアーへの参加、体験を通じて生徒の進学意識を高め、主体的に自らの進路を決定できるよう促しています。これらの経験や気づき・学びをすべてポートフォリオへ蓄積し、振り返りを行うことで、生徒たちのより大きな成長をはかります。

「実力を養成する指導」では、まずは授業を基本とし、各コースに応じた効率的なカリ

表2

主な国公立大学・私立大学合格数（）内現役合格者			
東北大学	1	青山学院大学	8(7)
茨城大学	5(3)	学習院大学	9(7)
筑波大学	2(2)	慶應義塾大学	7(5)
宇都宮大学	1(1)	上智大学	13(12)
埼玉大学	3(2)	中央大学	22(18)
千葉大学	2(2)	東京理科大学	15(15)
東京大学	1(1)	法政大学	15(10)
東京科学大学	3(3)	明治大学	26(19)
金沢大学	1	立教大学	15(14)
京都大学	1	早稲田大学	10(8)

キュラムときめ細やかな指導で基礎学力の徹底をはかります。それに加えて夏期進学講習や高3直前ゼミ、高3国公立2次試験対策講座（すべて無料）を行い、実践力を養います。特に、高2以降の講座は科目別・レベル別に設置され、生徒が自分の実力などに応じて自由に選択することができるようになっています。最近、高校3年生に対し卒業生による特別講座も設置しています。昨今、総合型選抜や学校推薦型選抜を希望する生徒も多くいます。通期で論文講座や総合型選抜講座も設置しています。また、本校の生徒たちは主体的に学習に取り組む者が多く、生徒からのニーズに対してはだいに応えていく所存です。このような「主体的に学ぶ生徒の育成」に重きをおいた指導をさらに続けてまいります。

3. 学校推薦型選抜（指定校制）について

学校推薦型選抜（指定校制）については、表3のように、青山学院大学、上智大学、東京理科大学、中央大学、明治大学など約140大学350名分の推薦枠があります。高1から高3までの評定平均値や高3学力テスト、指定校推薦共通テストの結果等を踏まえて、校内選考を行います。

表3

主な指定校推薦枠	
大 学	学 部
青山学院	法
学習院	法・文・国際社会科・理
上 智	理工
中 央	商・理工
東京理科	工・創域理工・理・先進工・経営
同志社	商
明 治	経営



足立学園のICT活用教育

ICT 推進委員会 杉山直輝

足立学園中学校・高等学校は今年度も Microsoft Showcase School としてアメリカの Microsoft 社の認定をいただきました。Microsoft Showcase School は世界の中小高大学などの教育機関から選ばれます。今年度は日本で 5 校が認定されました。これは生徒・教職員を含め、学校の ICT 活用が評価され認定されたものです。ICT が学力に直結するわけではありませんが、学びの新しい形としていかに ICT を使っていか考え、実践していることが評価されています。

本校では入学時に Windows ノート PC を購入していただいています。3 年保証ありで約 10 万円を超えるものになります。生徒全員が同じ端末を購入しているため、わからないことがあれば生徒同士で解決することもあります。教え合いが活発に進み、IT スキルだけではなく、ICT のコミュニケーションスキルも磨かれます。また、購入した端末は持ち帰り、家でも使えます。中学生はフィルターをかけていますが、高校生はかけていません。すべてを制限するのではなく、年齢に応じて求められる力が変わってきます。それを自らの経験から学ぶ環境づくりをしています。パソコンの価格がもっと安いものは世の中にたくさんあります。しかし、学校での 3 年間で安価なパソコンでずっと使うのは難しいことです。かと言って、高いパソコンは金銭的な負担が大きく、使いこなせないことがあります。そして、ほぼ毎日使うものになるので、破損の心配もあります。保証範囲も広いものに入るので、安心して 3 年間使えます。PC も日々変わるものなので、本校では毎年どの端末が良いのか検証し選定しています。



入学時に生徒一人一人に Microsoft アカウントを発行しています。Teams ではクラスのチーム、学年のチーム、部活のチームに所属します。その中でコミュニケーションをとり、卒業時にはかなり高い ICT スキルを身に付けます。授業プリントやクラスの連絡なども Teams で取り扱うため、Teams はなくてはならない存在です。当然のことながら、Office ソフト(Word, Excel, PowerPoint など)との相性も抜群です。宿題の回収も、Teams の課題機能から提出する形をとっています。しかし、すべてをデジタルでおこなっているわけではありません。あくまでもアナログとデジタルの良いところ取りをしています。放課後など、個人学習のために生徒が購入したノートパソコンを開いている姿を見かけることも多くなりました。今後は、SNS やインターネット上に漂う多くの誘惑に負けず、自分を律して勉強に向かう姿勢も大事になってくると思います。



日本 Microsoft のミッションに「Empower every person and every organization on the planet to achieve more. (地球上のすべての個人とすべての組織が、より多くのことを達成できるようにする)」というものがあります。本校でもすべての生徒とすべての教職員が、より多くのことを達成できるように支援しています。また、Microsoft Innovative Educator Expert や Adobe Creative Educator Innovator などの認定教員が在籍しています。2016 年より ICT の先陣を切って教育と向き合ってきました。生徒だけではなく教員も含め、学校を上げて ICT の活用に取り組んでいます。

2023 年、ChatGPT がリリースされてたった 3 か月で 1 億ユーザーを突破しました。AI 元年がやってきました。2024 年 4 月には本校の教職員向けの AI 研修を実施しました。AI とは何なのか、注意点は何か勉強をしました。保護者会では、生徒の AI 使用の同意をいただきました。使用を禁止するのは簡単な事ですが、どのように付き合っていくべきなのか、どのように使っていけば自分の人生において大きなプラスになるのかを考えていきたいと思っています。まだまだ課題は多いですが、授業での活用を含めて進めてまいります。7 月には第 2 回目の教職員研修も行いました。どのように AI が授業や業務に使えるのか考え、展開しています。

高校 1 年生では画像の生成や編集などで利用する場面があります。著作権や肖像権を侵害しないような画像づくりを考え制作します。高校 2 年生では自分で書いた大学の志望理由書を AI に添削してもらったり、出来上がった文章を評価してもらったりしています。高校 3 年生は入試に向けた勉強や面接練習のための質問作成に利用したりと、それぞれ創意工夫をしています。生徒に向けても、教員に向けても、失敗してもいいから、まずは使ってみる「Trial and Error」の精神を大事にしています。失敗から何をどう学び、自分を高めていくのか考えています。

以前は Teams の使い方に関して、教育委員会の方や小・中・高校から視察に来ることがよくありました。全国的にも ICT の普及が進み、視察の件数も落ちてきたのですが、最近はまだ増えています。最近では AI の活用に関してです。第一線で使っている私たち教職員ですら、手探りでやっています。授業の質や生徒指導の質を高めるためにも、AI がどのように使えるのか探っていきたいと思っています。

最後に今年度、足立学園は文部科学省の高等学校 DX 加速化推進事業として DX ハイスクールに認定されています。生徒たちの志や探究活動を支えるためにも、ハイスペックパソコン・3D プリンタ・レーザーカッターなどの製品を購入しました。現在、どのような活動に使えるのか相談しながら、使い始めています。今後が非常に楽しみです。





様々な企画がおこなわれ、盛りだくさんの2日間となりました。6,000人以上の来校がありました。実行委員の皆さんお疲れ様でした。



中学 1 年生 学年主任より 飯山泰介先生

入学から半年が経過しましたが、おはようございます、こんにちは、ありがとうございます等、1日を気持ちよく過ごすために欠かせないあいさつを自然と交わすことのできる生徒たちは、学校の各所に一隅を照らす存在として活躍を続けております。特に学園祭では、志発表、環境調査のまとめ、劇「名探偵コナン」といった学年企画で自らの持てる力を発揮し、来場者の皆様に感動をお届けできたことは、学年全体にとって大きな財産となりました。学年企画以外の時間帯は、高校の先輩方のクラス企画に優しく迎え入れていただくことで大いに楽しむことができたようでした。学園祭の翌週以降は、次年度の企画を検討する学年代表者会議において高校生の内容が刺激となり、議論が深まっていく様子が見て取れます。

学習面に対する取り組みでは、授業の前後に教科担当教員とコミュニケーションを図り、学習内容の理解を深めようと努力する生徒の姿も多く、今後の成長が楽しみでなりません。また、志共育の一環として実施された、シンガポールの名門大学である南洋理工大学の佐藤教授による講演「命を救うサイボーグ昆虫の研究開発を通して」では、研究内容に興味関心を抱きつつ、疑問に感じたことを次々に質問していく様子に、佐藤先生は「大学での講義以上に熱気があって、本当に来てよかったです」と感想を述べていらっしゃいました。世界で初めて昆虫とコンピュータを融合した「サイボー

グ昆虫」は、災害現場での人命救助への活用が期待されている最先端の技術であると同時に倫理的な観点から考えるべき課題もあり、中学校1年生には難しい内容ではないかと心配する声もありましたが、社会課題を自分事として考えることのできる彼らにとっては内容の難易度は関係ありませんでした。

部活動や委員会活動では、学年の76%近くの生徒が非常に満足もしくは満足していると回答している通り、徐々に先輩との距離も縮まってきたことも相まって、放課後の部活動などに行くために帰りのHRを早く終わらせてほしい、といった雰囲気が随分と出てくるようになりました。先輩方に育てていただきながら、学校生活を彩り豊かにする課外活動での経験は、何にも代えがたいものであると感じます。こうした思いを次年度の後輩たちに抱いてもらえるよう、学年全体として精進してまいります。



高校 1 年生 学年主任より 昆野 満先生

「楽しいから笑うのではない。笑うから楽しくなるのだ。」という脳科学理論を知った時、やっぱりそうだったかと納得した。「行動が感情を引き起こす」ということを、高校時代から体感していたからだ。体を動かすことで、脳が活発に動き出したのだろう。部活の朝練後の一時間目が最も集中できたものだ。実際、体を動かすことで、テストステロン（高揚ホルモン）、アドレナリン（闘争ホルモン）、エルドルフィン（快感ホルモン）、セロトニン（幸福ホルモン）が分泌されて、合法的にやる気と全知全能感が得られることは後から知った。アメリカでは朝4時からプールが賑わい、経営者たちは出勤前にジムで体を動かす。イギリスの名門バプリックスクールでは、生徒たちは始業前にボートを漕ぐ。日本でも朝礼時にラジオ体操を日課にしている会社がある。体を動かすことでやる気スイッチをオンにするのだ。まずは行動。気持ちは後からついてくる。

学年主任になった時、この理論を何らかの形で学習に取り入れられないものか考えた。SHRでラジオ体操？授業前スクワット？…などと考えていた時に、「うん、うん」といった頷きが、意欲と理解に大きく関係していることを知った。頷くことで、学習に対して能動的になるだけでなく、その情報を良いものとして脳が記憶しようとするそうだ。「分かったから頷くのではなく、頷くから分かる」のである。これなら簡単に取り入れられそう。これが学年目標を「頷こう」に決めた理由である。

さあ、どうやって生徒を頷かせようか。私たちは、毎日ワクワクしながら授業準備に取り組んでいる。教員にとって、生徒の頷きは彼らの感情が揺れ動いた瞬間であり、何よりうれしいものののだ。ああしたら面白いかも、こうしたら分かりやすいかも。生徒たちの反応が楽しみだ。

さて、今日も頷いたまま、動かなくなる生徒たち。現実には甘くはないようだ。



OBの活躍



写真：小川和行氏

左：藤阪 泰恒（ふじさか たいこう）

平成 26 年度卒業 1996 年 6 月 22 日生まれ

階級：66kg 級 段位：四段

出身大学：國學院大學 所属：パーク24

2023 年 全日本選抜柔道体重別選手権 優勝

2023 年 講道館杯全日本選手権 準優勝

2024 年 グランドスラム・東京 準優勝

右：武岡 毅（たけおか たけし）

平成 29 年度卒業 1999 年 6 月 5 日生まれ

階級：66kg 級 段位：四段

出身大学：國學院大學 所属：パーク24

2023 年 講道館杯全日本選手権 優勝

2024 年 アブダビ世界柔道選手権 準優勝

2024 年 グランドスラム・東京 優勝

センパイ!教えてください!

足立学園中学校・高等学校柔道部で頑張る生徒から藤阪選手へ質問をしました。お忙しい中、ご回答いただいた藤阪選手、ありがとうございました!



高校のめちゃめちゃ多い練習量から、大学などで練習量が減った時、それでも強くなるための秘訣は何ですか? (トレーニングとか) 【高3 K 君】

全体の練習で足りないと思う部分や、プラスアルファで必要だと思う部分の練習やトレーニングを空き時間で行うことが大事だと思います。



どうやったら勉強も頑張りながら柔道を頑張れますか?

【中1 M 君】

柔道も勉強も、計画なくダラダラと取り組んでいては時間だけがなくなるので、目的意識をもってメリハリをつけて取り組むことが大事だと思います。勉強も、いつか自分を助けてくれると思って頑張ってください。



どうやったら全国 1 位になれますか?

【中1 M 君】

徳原先生と篠岡先生の言うことをよく聞いて、全国 1 位になるという目標を忘れずに、真面目に真摯に腐らずに練習に取り組めば、全国 1 位にどんどん近づいていくと思います。



どうやったら強くなれますか?

【中1 W 君】

強くなりたいという気持ちを持ち続けることが 1 番大事だと思います。その気持ちがあれば辛い練習も耐える事ができるし、上を目指し続けられるので、気付いた時には強くなっていると思います。



RESULT

高校アメリカンフットボール部

第 55 回全国高等学校アメリカンフットボール選手権大会
全国ベスト16

高校剣道部

東京都高等学校春季剣道大会兼関東大会予選

男子団体 優勝

メンバー：築場虎輝、笠井瑛太、山中幸大、小田陽万、柿崎椿、
長谷川秀吾、宮田悠矢

東京都高等学校夏季剣道大会兼全国総体予選

男子団体 準優勝

メンバー：築場虎輝、笠井瑛太、山中幸大、小田陽万、柿崎椿、
長谷川秀吾、宮田悠矢

東京都高等学校秋季剣道大会

男子団体 準優勝

メンバー：小田陽万、柿崎椿、長谷川秀吾、宮田悠矢、笠井颯太、
福永葵、松下凌久

第 71 回関東高等学校剣道大会

男子団体 ベスト 8

メンバー：築場虎輝、笠井瑛太、山中幸大、小田陽万、柿崎椿、
長谷川秀吾、宮田悠矢

優秀選手賞 築場虎輝

玉竜旗高校剣道大会

敢闘賞 岡村有悟

国民スポーツ大会関東ブロック大会

少年男子 東京都代表 築場虎輝

中学剣道部

第 5 ブロック春季剣道大会

男子団体 準優勝

第 5 ブロック夏季剣道大会

男子団体 優勝

男子個人 準優勝 濱匠悟

男子個人 第 3 位 鈴木達大

第 5 ブロック秋季剣道大会

男子団体 優勝

男子個人 準優勝 竹田 悠斗

第 63 回

東京都中学校総合体育大会剣道大会兼東京都中学校剣道選手権大会

男子個人 ベスト 16 竹田悠斗

ゴルフ部

2024 年度関東高等学校ゴルフ選手権夏季大会東京地区予選男子個人

第 4 位（関東大会出場権獲得）金杉元明

2024 年度関東高等学校ゴルフ選手権冬季大会東京地区予選男子個人

第 12 位（関東大会出場権獲得）金杉元明

ソフトボール部

東京都ベストメンバー賞 藤井寿久、杉崎維

東京都優秀選手賞 石井飛尚太

高校卓球部

令和 5 年度 関東選抜大会 団体 6 位

メンバー：川野健児郎、杉本悠斗、秋山浩慶、岡野耕大、
高橋惺介、石川恵大、高梨俊梧

令和 5 年度 全国選抜大会 団体予選リーグ 2 位

メンバー：川野健児郎、杉本悠斗、秋山浩慶、岡野耕大、
高橋惺介、石川恵大、高梨俊梧

令和 5 年度 全日本選手権ジュニアの部

シングルスベスト 64 川野健児郎

TOKYO OPEN 2024

シングルス 2 回戦進出 川野健児郎、石川恵大

出場 高橋惺介、岡野耕大

令和 6 年度 東京都春季大会 団体 2 位

メンバー：川野健児郎、杉本悠斗、秋山浩慶、岡野耕大、
高橋惺介、石川恵大、高梨俊梧

シングルス 5 位 川野健児郎

ダブルス 2 位 川野健児郎・石川恵大

令和 6 年度 関東大会 団体ベスト 8

メンバー：川野健児郎、杉本悠斗、秋山浩慶、岡野耕大、
高橋惺介、石川恵大、高梨俊梧

シングルスベスト 16 川野健児郎

ダブルス出場 川野健児郎・石川恵大

令和 6 年度 インターハイ都予選 団体 2 位

メンバー：川野健児郎、杉本悠斗、秋山浩慶、岡野耕大、
高橋惺介、石川恵大、高梨俊梧

ダブルス優勝 川野健児郎・石川恵大

令和 6 年度 インターハイ 団体ベスト 16

メンバー：川野健児郎、杉本悠斗、秋山浩慶、高橋惺介、
石川恵大、高梨俊梧、古曾幹人

ダブルス 2 回戦進出 川野健児郎・石川恵大

中学卓球部

令和 5 年度 東京都新人大会 団体 3 位

令和 5 年度 関東選抜大会 団体 3 位

メンバー：金城歩、高橋斗真、大窪理央、伊藤寛航、丸山颯太、
藤代聖央、澤井勇輝

TOKYO OPEN 2024 3 回戦進出 高橋斗真

令和 6 年度 東京都総合体育大会 団体 3 位

令和 6 年度 全国中学校卓球大会 団体 3 位

令和 6 年度 全国中学校卓球大会 団体ベスト 13（優秀校）

メンバー：金城歩、高橋斗真、大窪理央、伊藤寛航、丸山颯太、
藤代聖央、手島結音、戸山碧士

令和 6 年度 東京カデット兼全日本選手権予選

シングルス 2 位 高橋斗真

令和 6 年度 全日本選手権カデットの部

シングルスベスト 64 高橋斗真

水泳部

令和6年度 第72回 東京都中学校学年別水泳競技大会
中学3年 50M 男子 バタフライ 第2位
令和6年度 第64回 全国中学校水泳競技大会
100M 男子 バタフライ 第36位
令和6年度 第76回 東京都中学校選手権水泳競技大会
100M 男子 バタフライ 第5位
令和6年度 第76回 東京都中学校選手権水泳競技大会
200M 男子 バタフライ 第5位

村松浩太

中学バスケットボール部

第39回東京私立中学バスケットボール大会 準優勝
令和5年度 新人大会足立区支部予選 優勝
令和5年度 足立区民大会 準優勝
令和6年度 東京都中学校バスケットボール選手権大会足立区支部予選
準優勝
令和6年度 東京都U15バスケットボール選手権大会 ベスト8

トラックスピードスケート(個人)

第69回全日本トラックスピード選手権大会
200m、500m、1000m、10000m 優勝
第20回全日本ロードレース選手権大会
100m、10000m、15000m 優勝
2024世界選手権大会 WRG イタリア大会 出場
鈴木淳一郎

高校サッカー部

令和6年度 全国高校総合体育大会東京都支部予選出場
令和6年度 第103回 全国高校サッカー選手権大会一次予選出場
令和6年度 地区新人選手権大会出場

ソフトテニス部

2024年度新進大会個人戦 ブロック決勝進出

将棋部

2024年度 東京都高等学校文化祭将棋部門中央大会
第4位(関東大会出場) 大塚智直

高校柔道部

第46回全国高等学校柔道選手権大会 団体戦 準優勝
60kg級 準優勝 長谷川譲希
73kg級 優勝 荒川琉正
令和6年度 第72回関東高等柔道大会 団体戦 優勝
令和5年度 第1回 関東高等学校選抜柔道大会
60kg級 優勝 長谷川譲希
66kg級 優勝 宮部蓮匠
73kg級 優勝 荒川琉正
令和6年度 全国高等学校総合体育大会柔道競技
60kg級 第3位 長谷川譲希
73kg級 優勝 荒川琉正
90kg級 出場 鍋木克優
第77回国民体育大会
優勝(東京都代表) 荒川琉正
第78回国民スポーツ大会
東京都代表 長谷川譲希
東京都代表 荒川琉正
2024年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会
73kg級 第3位 荒川琉正
2024年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会
73kg級 出場 荒川琉正
クリスマス杯エクサンプロヴァンス・ジュニア国際大会
73kg級 優勝 荒川琉正

中学柔道部

第55回 全国中学校柔道大会
60kg級 優勝 福田悠真
50kg級 準優勝 星凌介
55kg級 出場 奥悠晴
第49回 関東中学校柔道大会 団体戦 第5位
55kg級 優勝 奥悠晴
60kg級 優勝 福田悠真
50kg級 準優勝 星凌介
令和6年度 全日本マルちゃん杯 出場

AWARD

吹奏楽部

第64回東京都高等学校吹奏楽コンクール 東日本大会組
金賞受賞ならびに代表選考会に選出
第24回東日本学校吹奏楽大会 東京都代表校選考会
第5位

書道部・書写授業

第40回高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会
優秀団体賞
書道部 日本武道館奨励賞 江口武蔵
書写授業 日本武道館奨励賞 佐々木篤人



Microsoft Showcase School —足立学園が Microsoft を選んだ理由

足立学園は2016年に Associate Showcase School に認定され、その後 Microsoft Showcase School としての認定を2020年に受けました。ちょうど新型コロナウイルスが海外で流行し始め、日本にも感染者が出始めた3月に調印式を行ったのを覚えています。

足立学園での ICT 活用教育が始まったのは2015年になります。当時校長だった寺内先生の掲げた「授業改革」の一貫として行われました。まずは中学特別クラスの生徒に一人一台のタブレット PC を購入してもらい、授業で使えるようモニター型電子黒板の整備、Wi-Fi の設置などを行いました。もちろん他社の製品やサービスを使う案も出たのですが、生徒が今後、中学・高校から大学・社会へと成長し、羽ばたいていくにあたり、圧倒的シェアを誇る Microsoft 社の Windows で ICT 教育を行っていく、という方針となりました。Office 365 の活用が始まり、Teams が登場すると、全てのクラス、授業の連絡が Teams を使うようになりました。各クラスに用意されたチームに、各教科ごとのチャンネルが用意され、授業の持ち物やプリント、小テストの Forms、保健だ

よりや図書だよりも配信されるようになりました。Teams がアップデートし、課題配信機能が使えるようになると、AI 採点システムの Learning Accelerator にある Reading Progress（音読採点システム）を使ったり、簡単なプレゼンテーションを作成させて提出させたりと利用の幅も広がってきました。行事や部活動でも当たり前のように Teams が利用されています。

また、2024 年には Microsoft 社の AI「Copilot」の試験的導入も始めました。使用できる先生は限られていますが、生成 AI での業務軽減や、生徒の学びに活かせる活用方法を各々探っている状況です。

Microsoft Showcase School の認定は1年ごととなっており、毎年更新が必要です。現状維持では留まることはできず、アップデートを求められます。生徒の学びが深く、また充実したものとなるための ICT 活用授業であるため、最低限のルールしか設定していません。ルールにないから何をしてもいい、何時間でも使っているのではありません。生徒の皆さんはその意味をしっかりと考えてほしいと思っています。



SHOWCASE SCHOOL

Class of 2024–2025

足立学園中学校・高等学校

AdachiGakuen

Junior and Senior High School

編集後記

◆教員をやっていると、どうしても自分の担当している学年や生徒に目を向けることが多くなりますが、この『足立の教育』の編集をしていると、他学年の様子や普段授業等で接していない生徒の活躍を知ることができます。足立学園で教員をさせて頂く中で、生徒たちの良いところをどんどん見つけて、いろんな人に知らせていく。そして、その生徒に自信を持って、また頑張ってもらい、そんな広報活動をできるようにになりたいと思いました。（堂添）

◆足立学園が志共育を取り入れてから、著名人の言葉や CM、SNS などでも志という言葉が出ると、思わず反応する自分があります。今回、井上校長と先生方の対談の現場にいて、志共育が生徒だけでなく、先生たちの心の持ちようにも影響しているのだなと感じることができました。私の志はなんだろう、と改めて考えるいい機会となりました。今号もお忙しい中たくさんの先生方にご協力いただき、誌面の作成を行う事ができました。深く御礼申し上げます。ありがとうございました。（八重樫）

足立学園の情報はこちらをご覧ください。



<https://www.adachigakuen-jh.ed.jp/>



足立学園チャンネル



@adachigakuen_jh



adachigakuen.jh



@adachigakuen2023

OB の近況や活躍をぜひお知らせください！！

夢をかなえた、事業を興した、お店を持った、今こんな仕事していますなど、
たくさんの情報待ってます！ <https://00m.in/adachiob>